

全国子ども x 地域合衆国サミット 参加者の発言

「こどものまち」の紹介

初めに簡単でございますが、「こどものまち」とはどういったものかについてご紹介いたします。「こどものまち」とは、自分たちの理想のまちをみんなで協力し合いながら作るという趣旨のものになっております。そういう仮想のまちはの生まれは、ドイツのミュンヘンという都市で40年前に生まれました。日本では開催が始まったのはよそ2000年頃からです。現在では300以上の地域に広がっておりまして、非常に規模が拡大しています。今日、参加されているそれぞれ「こどものまち」にもそれぞれ個性があるんですけども、例えばまち作る子ども会議が行われていたり、あるいは子どもの代表を選ぶ選挙が行われていたり。子ども市長、副市長を選挙で選ぶ仕組みがあったり。また、「こどものまち」ということで、大人の立ち入り禁止のエリアがあるところもあります。ここで共通している点としましては、どこの町においても、子どもたちの運営するお店、あるいは施設があり、そこで子どもが働くことができるという点です。また、その町の独自の通貨で買い物したり遊んだりすることができるという。まさに大人の町を、規模を小さくして、子どもたちで大人の町と同じような仕組みを作ろう。そこに新たなアイデアも取り入れていこう、といった趣旨の「こどものまち」になっております。

ミニヨコハマシティの事例紹介

ミニヨコハマシティは横浜で2007年から毎年開かれている「こどものまち」です。ミニヨコハマシティは、子どもがどんなまちにしたいか、自分たちで考え、子ども会議で話し合います。自分と違う意見が出た時も、その意見を聞き、どうしたら楽しいまちになるかみんなで話し合って作り上げます。私は今年2回目の参加です。参加したいと思ったのは一人一人がやってみたくて持っている、それを実現できるまちを作ろうとするところが楽しいからです。いろんな人がいろんな意見を出すことができ、それをまとめていくことはとても難しいです。しかし、たくさん意見がある方が素晴らしい町になると思います。ミニヨコハマシティでは市長選挙を行います。最初の年に選ばれた市長は今、横浜市の小学校の先生をしながら、ミニヨコハマシティを手伝ってくれています。私は、選挙で副市長に選ばれました。ミニヨコハマシティをきっかけに、今日のような機会をいただいたり、学校以外でもさまざまな体験ができています。今年のミニヨコハマシティは会議を重ねた後、夏休みに、みなとみらいエリアにある現代アートのギャラリーを使って準備に2日間、本番2日間を行いました。私は放送局を担当し、町のニュースや落とし物などを放送しました。今回新たな取り組みとして、大人のアーティストの人たちとコラボしてオリジナルの楽器を作りパレードしたり、ビニールで自分の形をくりぬいて自分の分身を作ったりしました。いつもワクワク、新しいことが生まれる町。それが横浜のミニヨコハマシティです。

ミニたまゆりの事例紹介

僕が子ども市長をしているミニたまゆりについて紹介します。ミニたまゆりでは次の事を実現しました。一、かわさきエフエムに出演し、「こどものまち」の宣伝をしました。二、今回ウクライナの子どもたちが参加していたので、日本とウクライナの子どもたちが仲良くなれる方法を考えてルールにしました。三、食糧問題、ゴミ問題などSDGsを意識した活動を取り入れて、持続可能なエコなまちをつくるための方法を考えまし。四、AIやVRといった最新技術を取り入れて、今までにない新しい仕事を考えました。今回は三、と四、について紹介します。「こどものまち」に参加する人に呼びかけてフードバンクの活動をしました。2日間でこれだけたくさんのお食べ物が集まりました。社会福祉協議会や福祉の施設に交渉して集めた食糧を困っている子どもたちに配ってもらうようお願いしました。この写真は、ウクライナと日本の国境をモチーフにしたゴミアートです。ゴミ拾いが楽しく続けられるように、カラフルなゴミ袋を用意してゴミアートを作ることになりました。また、ペットボトルのフタを使ったエコアート作品もつくりました。新しい仕事をつくるでは、3Dカメラマンという仕事をつくりました。立体的なオブジェを取り込み、仮想空間に展示するお仕事です。「こどものまち」ではいろんなアイデアを形にしましたが、子どもだけの力で実現したわけではありません。今回、僕たちの考えたアイデアを実現するために、大学の先生や地域の人たちに協力してもらいました。今回、「子ども会議で、こんなことはできないと思う」と発言した僕に先生は「子どもの意見は大人とは違うから声を上げることが大切」と言ってくれました。社会福祉協議会に自分でフードバンクのお願いに行った時、職員の人はずきながらお話を聞いてくれて最後には許可を出してくれました。この経験で子どもでも良いアイデアと行動力があれば、大人の人を巻き込んで実現できることが分かりました。今後はもっと良いアイデアをたくさん考え、多くの人たちと協力をしながら、より良いまちづくりを目指していきたいと思ひます。

鈴木大田区長のコメント

我が国の未来を考えたとき、まあ、本日のような取り組みは、大変意義のある素晴らしいものだと感じることができました。また子どもたちの生き生きとした明るい笑顔と発信がとても印象に残る発言でございました。基本的に、大人が関与しない子どもたちのまちで子どもたちが主体となって、さまざまな社会体験を通じて、自分で考えを発信し、コミュニケーションを高めて交渉しながら課題を自主的に解決していく姿は、私からも今大変頼もしく見えました。また、子ども合衆国サミットでは、鋭い切り口で的確に社会の事象を捉える内容ばかりだろうかと思います。正直、申し上げまして、本当に驚くと同時に子どもたちの優れた思考力と洞察力に大きな感銘を受けたところでございます。遊びの中に実は学びがあり学びを通して、成長がある、そのような思いを改めて感じたしだいでもあります。大人社会では、いつしかなくなってしまった大切なものが、「こどものまち」にはあるような、そんな感想を持たせていただきました。私も今日のこの大事な時間をこれからの大田区区制

の中でしっかりと生かさせていただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

伊藤川崎副市長のコメント

まず、未来共創声明の五つの柱を中心に、それぞれを、ご紹介し議論があったと思います。本当に素晴らしい取り組みで、今は無理でもいずれ実現できればいいなと私自身も思っております。ただ感じたのは、やはり子どもが一人の人間として社会の一員として尊重されなければならない。こういった五つの声明を実現するためには、やはりそのベースとなるものは子どもの権利といったものの尊重なくして実現はありえないのかなというふうに思いました。川崎市では、全国に先駆けて子どもの権利条例というものを制定いたしました。その条例に基づいて、子どもの意見の表明の場として子ども会議ですとか、子どもの居場所として子ども夢パークといったものがあったり、あるいは学校教育の中では子どもの権利学習を行ったり、あるいは「子どもの権利の日の集い」ということで、子どもの権利について、子どもの当事者だけでなく多くの大人たちに知ってもらおうといったことで毎年一回、行っております。そして、国の方では、今年度から、こども基本法が施行されまして、推進役として、こども家庭庁ができたわけですが、改めて思いますのは、川崎市のように条例を作って何年も経ちますし、またこども家庭庁ができてですね、残念ながら地域では子どもの権利を奪うような出来事、事件、事故といったものも起こっているのは事実です。条例を作ったから、あるいは法律を作ったから全てが上手くいくわけでもなく、そういったものを皆さんに知っていただいて、その課題をどうしたらいいのかについて大人が考えるのではなく、こういった取り組みのように、「こどものまち」で子ども自身が取り組んでいくことは、本当に大事ななと思いました。そういった意味では、こうした取り組みを単発で終わらせるのではなくて継続して取りくんでいくこと、先ほど鋼管通の話がありましたけども、いずれはOBOGになって地域課題の解決にもつながっていく。こういった取り組みの輪が広がっていくと同時に、継続していくということの大切さを知りました。

最後ですね、先日、番匠先生ともお話したんですけども、初めて川崎のミニたまゆりに参加させていただいたのは、もう5、6年前のことです。その時に、こうした子どものまちづくりの取り組みを見て、子ども市長、副市長を選び、就職をして、自分たちでお店を開いたりして、お金を稼いで納税をする。そういった取り組みというのは、「あ、これは、子どもたちにとってキャリア教育になるな」あるいは「主権者教育に良いな」と、そういう感想でした。それ自体は決して間違いではないと思うのですが、その受け止め方、発想自体が本当に上から目線でした。大人として子どものキャリア教育につながればいいなということではなくてですね。まさに本当に、子どもを真ん中にして、世の中を作っていく子どもたちが、こういう経験をするっていうことは本当に大事だし、逆に私自身が、その場で教えられた気がしました。今年の9月にミニたまゆりに、ひさしぶりに行ったんですけども、その時にはですね、本当に、あの子どもたちに教えられたってということと、そして何よりも、メ

タバースとかAIとか技術的には可能な時代な中で、今もミニ羽田でやっていますけども、本当に子どもたちが手作りで汗をかきながら議論しながらやっていく、本当に自分たちで苦労しながらやってくというプロセスも本当に大事なのかな。是具こういった取り組みがええ、これからも続いていくことを期待をしています。ありがとうございました。